

特別企画

原節子特集

昨年亡くなった日本映画を代表する女優・原節子の特集。追悼一周年企画。

原節子特集

昨年亡くなった日本映画を代表する女優・原節子の特集。
追悼1周年企画。

会期:11月2日(水)～11月27日(日) ※休館日・休映日除く
観覧料:600円(大人) 500円(大学生・高校生) 400円(中学生・小学生)

※定員制。各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は300円。(手帳や保険証などの提示が必要です)

※「わの会」会員は300円。(会員証の提示が必要です)

6(日) 11:00 / 11(金) 11:00 / 16(水) 14:00

安城家の舞踏会

安城家は華族だったが今では没落し、屋敷も抵当に入っていた。消えゆく時代を惜しむように安城家は舞踏会を開催する。当主の忠彦は新川に借りた多額の借金をなしにしてもらおうと考える。新川が信用できない二女敦子は昔安城家で運転手をしていた遠山に屋敷を買ってもらおうと考える。遠山は安城家の長女・昭子が好きで舞踏会で求婚するのだった。

原作は吉村監督だが、これは監督が鎌倉の名家に招かれたときの体験を元にしたため。戦後の旧華族の没落を脚本の新藤兼人は、チェー



©1947松竹

監督:吉村公三郎

出演:滝沢修 原節子

1947年/35ミリ/モノクロ/90分/松竹

ホフの「桜の園」を下敷きとした物語とした。敦子が狂言回しの役割を担い、映画は原節子演じる敦子のアップで始まり、最後も敦子で終わる。その意味では本作は敦子を中心とした映画。戦後の原節子とその輝かしい足跡を刻んだ最初の作品と言えるもので、吉村監督の代表作の1本である。

原節子 略歴

1920年横浜市生まれ。2男5女の末っ子であり、家庭が経済的に困窮したことで二女・光代の夫である映画監督・熊谷久虎の勤めで35年、日活に入る。

映画デビュー作は「ためらふ勿れ若人よ」(35年)で、原節子の芸名もこの映画の役名から命名された。「河内山宗俊」などで彼女は早くから注目され、特にその日本人離れした美貌は評判となる。日独合作映画「新しき土」(37年)の製作に来日した監督アーノルド・ファンクに主役として起用される。「新しき土」でヨーロッパを巡回した後、東宝の前身であるJ・Oに入社。看板女優として多くの作品に出演。

戦後、原節子は女優の道を歩き始める。黒澤明監督「わが青春に悔なし」(46年)「安城家の舞踏会」などで女優として高い評価を獲得。しかし何と言っても彼女の評価を決定的にしたのは小津安二郎監督と組んだ「晩春」であった。その後小津監督「麦秋」「東京物語」、成瀬巳喜男監督「めし」「山の音」など日本映画の名作に主演、日本映画の黄金時代を代表する女優となり「永遠の処女」とうたわれた。

その後成熟した女性の役柄もこなしていたが62年「忠臣蔵」を最後に映画に出演しなくなり、42歳で引退となる。そしてジャーナリズムにもファンの前にもけして姿を現さず、引退の理由もはっきりしないまま原節子はスクリーンから姿を消す。そして2015年9月5日死去という、突然の訃報が伝えられた。その美貌と早い引退、生涯独身であったことから「日本のグreta・ガルボ」とも言われている。

3(木・祝) 11:00 / 18(金) 11:00 / 25(金) 11:00

河内山宗俊



監督:山中貞雄

出演:河内崎長十郎 中村新右衛門

1936年/16ミリ/モノクロ/81分

日活=太秦発声

浪人・金子市之丞は夜店で甘酒を売るお浪がお気に入り。お浪の弟・広太郎が河内山宗俊の居酒屋に出入りしたことから、宗俊もお浪と出会いその純粋さに惹かれる。ところが広太郎の借金のためお浪が売られそうだと知った市之丞と宗俊は、お浪を救うため立ち上がる。歌舞伎を原作とした映画だが、自由に脚色されている。可憐なお浪を当時15歳の原節子が演じている。

※作品が古いためお見苦しい箇所があります。御了承ください。

2(水) 14:00 / 12(土) 14:00 / 23(水・祝) 14:00

青い山脈



監督:今井正

出演:池部良 原節子

1949年/35ミリ/モノクロ/183分

藤本プロ

海光女学校の寺沢新子は雑貨屋で留守番をしていた金谷六助と知り合う。そして新子にあやしげなラブレターが届く。同級生のイタズラと思った新子はクラス担任の島崎に相談、島崎はクラスの問題として生徒と議論する。このことで学園は大騒ぎとなっていく。石坂洋次郎原作の映画化だが、本作は民主主義啓蒙を目的に作られており、思春期の恋愛を明るくユーモアをこめて描いている。主題歌と共に大ヒットした作品。

※途中5分間の休憩あり。

4(金) 11:00 / 20(日) 11:00 / 27(日) 11:00

晩春



監督:小津安二郎

出演:笠智衆 原節子

1949年/35ミリ/モノクロ/108分/松竹

東大教授の曾宮周吉には一人娘の紀子があった。周吉は妻を亡くした後身の回りの世話を紀子に頼っていたが、紀子も適齢期を迎えていた。ある日叔母から縁談を持ち込まれる。父親が一人暮らしになることを心配する紀子を安心させようと、周吉は再婚を考えていると言ってしまふ。本作から小津監督は野田高梧と共同で脚本を書くようになり、数々の傑作が誕生する。また原節子が初めて小津映画のヒロインとなった本作は、小津監督と原節子の代表作となった。

3(木・祝) 14:00 / 19(土) 11:00 / 26(土) 11:00

お嬢さん乾杯



監督:木下恵介

出演:佐野周二 原節子

1949年/16ミリ/モノクロ/90分/松竹

自動車整備工場を経営する石津圭三は仕事一辺倒で、34歳で独身だった。ある日取引先から旧華族の令嬢・泰子との縁談を持ちかけられる。身分が違ふと嫌がる圭三だったが、会ってみると泰子の美しさに一目ぼれ。しかし二人の交際はギクシャクしたものだった。戦後の華族制度の廃止、新興成金の誕生などの社会背景を盛り込んだコメディタッチの作品。原節子が木下恵介監督作品に出演した唯一の映画。

9(水) 11:00 / 23(水・祝) 11:00 / 27(日) 14:00

めし



監督:成瀬巳喜男
出演:上原謙 原節子
1951年/35ミリ/モノクロ/97分/東宝

岡本初之助と妻の三千代の夫婦は大阪でつましく暮らしていた。恋愛結婚して5年だが、最近は夫婦の会話も少なくなっていた。ある日初之助の娘の里子がやって来る。奔放な里子に振り回される三千代の不満はつのり、働くことを考える。林芙美子の遺作の映画化。成瀬監督が原節子や上原謙を初めて起用した作品で、50年代の日本映画黄金時代の幕開けを告げる秀作となった。

4(金) 14:00 / 20(日) 14:00 / 24(木) 11:00

麦秋



監督:小津安二郎
出演:笠智衆 原節子
1951年/35ミリ/モノクロ/125分/松竹

間宮紀子は28歳のOL。ある日伯父から縁談を持ちかけられる。会社の上司の佐竹からも見合いを勧められる。間宮家は紀子の結婚を巡ってちょっとした騒ぎになる。しかし最後に紀子が結婚を決意したのは意外な人物だった。名作「晩春」のスタイルを踏襲しながら、登場人物を増やした作品。「晩春」「東京物語」と並んで小津の代表作とされる作品で、小津の最高傑作という評価もある名作。

5(土) 11:00 / 16(水) 11:00 / 26(土) 14:00

山の音



監督:成瀬巳喜男
出演:山村聡 原節子
1954年/35ミリ/モノクロ/94分/東宝

尾形修一と菊子の間に子供はなく、修一は浮気をしており、夫婦関係は冷え切っていた。修一の父・信吾はかいがいしく舅夫婦の世話をする菊子が不憫だった。ある日菊子は外出するが、それは修一の子供を墮すためだった。川端康成原作の映画化。菊子と信吾の間に漂うエロチックでサスペンスに満ちた関係が本作の特徴である。成瀬監督らしくない題材だが、監督の代表作の1本と評価は高い。

9(水) 14:00 / 12(土) 11:00 / 17(木) 11:00

智恵子抄



©東宝
監督:熊谷久虎
出演:山村聡 原節子
1957年/35ミリ/モノクロ/98分/東宝

詩人・高村光太郎は知人から智恵子を紹介される。詩を読み、油絵を描く智恵子に光太郎は惹かれ二人は結婚する。貧しくとも幸せな生活だったが、智恵子の絵はなかなか評価されなかった。絵が評価されず主婦の仕事もできない智恵子は悩み、次第に精神を病んでいく。本作は二人が出会って智恵子が亡くなるまでを描いている。原節子自身が映画化を望んだと言われており、美しい夫婦愛の物語となった。

6(日) 14:00 / 19(土) 14:00 / 24(木) 14:00

白痴



監督:黒澤明
出演:三船敏郎 森雅之
1951年/35ミリ/モノクロ/166分/松竹

復員してきた亀田は故郷北海道への帰路・赤間と知り合う。二人は札幌の写真館に飾られた妙子の写真に心惹かれる。やがて妙子と知り合った二人だが、赤間は金の力で妙子と結婚しようとする。妙子は亀田にも惹かれるものを感じるのだった。ドストエフスキーの同名原作の映画化。舞台を日本に移して忠実に映画化したものだが、セリフの多い原作を映像的に表見しようとしている。妙子を演じる原節子の美しさは素晴らしい。

5(土) 14:00 / 11(金) 14:00 / 25(金) 14:00

東京物語



監督:小津安二郎
出演:笠智衆 東山千栄子
1953年/35ミリ/モノクロ/136分/松竹

尾道に暮らす老夫婦・周吉ととみが東京で暮らす子供たちに会いにやって来る。医学博士の長男・幸一は忙しく、美容院を経営する長女・志げも店が忙しく親の面倒を見れない。二人の世話をするのは戦死した二男・昌二の嫁の紀子だけだった。小津監督の代表作であり、日本映画の最高峰の評価を得ている名作。また本作は世界中の監督に影響を与えたと言って過言ではない。原節子は紀子役で出演。

10(木) 11:00 / 13(日) 14:00 / 17(木) 14:00

驟雨



©東宝
監督:成瀬巳喜男
出演:佐野周二 原節子
1956年/35ミリ/モノクロ/91分/東宝

並木亮太郎と文子は結婚して4年、子供はなく倦怠期が訪れつつあった。ある日隣に今里夫妻が越してくる。今里稔吉は文子の美しさに気を取られ、亮太郎は稔吉の妻・雛子の若々しさが気になる。東京郊外の新興住宅地を舞台に夫婦の日常生活をリアルに描いた作品。当時の世相も上手く取り入れられており、成瀬監督作品の中では比較的ユーモアを感じさせる明るい作品となった。

10(木) 14:00 / 13(日) 11:00 / 18(金) 14:00

秋日和



©1960松竹
監督:小津安二郎
出演:司葉子 原節子
1960年/デジタル/カラー/125分/松竹

三輪秋子の夫の7回忌。学生時代からの悪友・田口、平山、間宮の3人は秋子の変わらない美しさと、秋子の娘アヤ子の縁談の話題に花を咲かせる。間宮は部下の後藤をアヤ子の縁談相手に考える。アヤ子が母親が一人になることを心配すると、ヤモメの平山が秋子の再婚候補となる。「晩春」を下敷きに、母親と娘の話に置き換えられている。原節子が母親役となり、「晩春」とはかなり違った印象の作品となった。

11月

上映スケジュール



1 火	休 館 日	
2 水	11:00 河内山宗俊	14:00 青い山脈
3 木 祝	11:00 河内山宗俊	14:00 お嬢さん乾杯
4 金	11:00 晩春	14:00 麦秋
5 土	11:00 山の音	14:00 東京物語
6 日	11:00 安城家の舞踏会	14:00 白痴
7 月	休 館 日	
8 火	休 映 日	
9 水	11:00 めし	14:00 智恵子抄
10 木	11:00 驟雨	14:00 秋日和
11 金	11:00 安城家の舞踏会	14:00 東京物語
12 土	11:00 智恵子抄	14:00 青い山脈
13 日	11:00 秋日和	14:00 驟雨
14 月	休 館 日	
15 火	休 映 日	
16 水	11:00 山の音	14:00 安城家の舞踏会
17 木	11:00 智恵子抄	14:00 驟雨
18 金	11:00 河内山宗俊	14:00 秋日和
19 土	11:00 お嬢さん乾杯	14:00 白痴
20 日	11:00 晩春	14:00 麦秋
21 月	休 館 日	
22 火	休 映 日	
23 水 祝	11:00 めし	14:00 青い山脈
24 木	11:00 麦秋	14:00 白痴
25 金	11:00 河内山宗俊	14:00 東京物語
26 土	11:00 お嬢さん乾杯	14:00 山の音
27 日	11:00 晩春	14:00 めし
28 月	休 館 日	
29 火	休 映 日	
30 水	休 館 日	

原
節
子
特
集

「こんにちはシネラです」上映会

総合図書館収蔵の名作アジア映画の上映会

会期 11月13日(日)

会場 なみきホール(なみきスクエア1階)
福岡市東区千早4丁目21番45号(千早駅西側)
Tel.092-674-3981観覧料 500円(大人)/400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

上映作品

11:00~
ジャングル・スクール監督:リリ・リザ
2013年/デジタル/カラー/90分
インドネシア映画/日本語・英語字幕付き14:00~
シンガポール・グラフィティ監督:ツイ・ユイウェイ
2013年/デジタル/カラー/115分
シンガポール映画/日本語・英語字幕付き

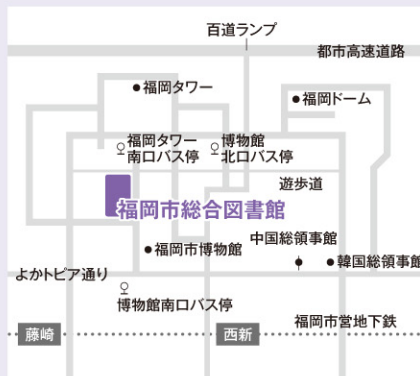
※定員制。各回入れ替え制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は250円。(手帳や保険証などの提示が必要です。)
※「わの会」割引なし。
※幼児は無料ですが保護者の同伴が必要です。
※チケット販売及び開場は上映の30分前。

主 催 福岡市総合図書館映像資料課 Tel.092-852-0600
お問い合わせ 10時~19時(日・祝日は18時まで) ※図書館休館日は除く

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表):tel.092-852-0600 fax.092-852-0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ ホームページ

うえぶシネラ <http://www.cinela.com>

交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【市営地下鉄】

西新駅または藤崎駅下車徒歩15分

【西鉄バス】

●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分または博物館南口下車徒歩5分

●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分

○所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については西鉄お客様センター[TEL.0570-00-1010]に直接お問い合わせください。

第371回プロムナードコンサート

◆◆◆ 月に一度のお昼休みのクラシックコンサート ◆◆◆

日 時:2016年11月18日(金) 12:00~13:00 ※入場無料
場 所:西日本シティ銀行本店1Fエントランスホール(福岡市博多区博多駅前3-1-1)
曲 目:モーツァルト作曲 弦楽四重奏曲第20番ニ長調 K.499「ホフマイスター」他
演奏者:福岡ハイドン弦楽四重奏団
主 催:西日本シティ銀行/公益財団法人福岡文化財団(TEL.092-473-6777)

大量の本の整理 おまかせください。

いろいろなものを
まとめて査定!! 本/CD/レコード/昭和レトロなコレクション

古書 よかばい 堂

☎092-408-4208 <http://www.yokabaido.com/>
〒815-0074 福岡市南区寺塚1-26-18-101

音楽文化のリサイクル

レコード/CDお売り下さい!!

092-734-4198

〒810-0041 福岡市中央区大名1-14-14 立花ビル2F (AM11:00~PM8:00)

発行:映像ホール・シネラ実行委員会 印刷:大同印刷株式会社 R100 本誌掲載料 100%再生紙を使用しています。